

## 令和7年度前期日程入学試験問題 数学 D 解答例

以下は計算方法や論述の一例です。

**1**

$$(1) \text{ (i) } \lim_{x \rightarrow 1} \frac{x^3 - 1}{x^3 - x^2 - 2x + 2} = \lim_{x \rightarrow 1} \frac{(x-1)(x^2 + x + 1)}{(x-1)(x^2 - 2)} = \lim_{x \rightarrow 1} \frac{x^2 + x + 1}{x^2 - 2} = \underline{-3}$$

(ii)  $t = \frac{1}{x}$  とおくと,

$$\begin{aligned} \lim_{x \rightarrow \infty} x \left( \sin \frac{3}{x} - \sin \frac{1}{x} \right) &= \lim_{t \rightarrow 0} \frac{1}{t} (\sin 3t - \sin t) \\ &= 3 \lim_{t \rightarrow 0} \frac{\sin 3t}{3t} - \lim_{t \rightarrow 0} \frac{\sin t}{t} \\ &= 3 \cdot 1 - 1 = \underline{2} \end{aligned}$$

(2) (i)  $t = 4 - x$  とおくと,  $x = 0$  から  $x = 3$  のとき  $t = 4$  から  $t = 1$  に変化する。さらに,  $\frac{dt}{dx} = -1$  であるので,

$$\begin{aligned} \int_0^3 \frac{x}{(4-x)^3} dx &= \int_4^1 \frac{4-t}{t^3} \cdot -dt = \int_1^4 4t^{-3} - t^{-2} dt \\ &= 4 \left[ \frac{1}{-3+1} t^{-3+1} \right]_1^4 - \left[ \frac{1}{-2+1} t^{-2+1} \right]_1^4 \\ &= -2(4^{-2} - 1^{-2}) + (4^{-1} - 1^{-1}) \\ &= -2\left(\frac{1}{16} - 1\right) + \left(\frac{1}{4} - 1\right) = \frac{15}{8} - \frac{3}{4} = \underline{\frac{9}{8}} \end{aligned}$$

(ii) 部分積分法により求める。

$$\begin{aligned}\int_1^{e^2} 1 \cdot (\log x)^2 dx &= \left[ x \cdot (\log x)^2 \right]_1^{e^2} - \int_1^{e^2} x \cdot 2 \log x \cdot \frac{1}{x} dx \\ &= \left[ x \cdot (\log x)^2 \right]_1^{e^2} - 2 \int_1^{e^2} \log x dx \\ &= \left[ x \cdot (\log x)^2 \right]_1^{e^2} - 2 \left[ x \log x - x \right]_1^{e^2} \\ &= (4e^2 - 0) - 2 \{ (2e^2 - e^2) - (-1) \} \\ &= 4e^2 - 2 \{ (2e^2 - e^2) - (-1) \} \\ &= 4e^2 - 4e^2 + 2e^2 - 2 = \underline{2e^2 - 2}\end{aligned}$$

(3) 合成関数の微分法により  $f(x) = \left( \frac{x}{x+a} \right)^{\frac{1}{3}}$  を微分すると,

$$\begin{aligned}f'(x) &= \frac{1}{3} \left( \frac{x}{x+a} \right)^{\frac{1}{3}-1} \cdot \left( \frac{x}{x+a} \right)' \\ &= \frac{1}{3} \left( \frac{x}{x+a} \right)^{-\frac{2}{3}} \cdot \frac{x'(x+a) - x(x+a)'}{(x+a)^2} \\ &= \frac{1}{3} \left( \frac{x}{x+a} \right)^{-\frac{2}{3}} \cdot \frac{a}{(x+a)^2}\end{aligned}$$

よって,

$$f'(a) = \frac{1}{3} \left( \frac{a}{2a} \right)^{-\frac{2}{3}} \cdot \frac{a}{4a^2} = \frac{1}{3} \cdot \sqrt[3]{4} \cdot \frac{1}{4a} = \frac{\sqrt[3]{4}}{12a}$$

となる。仮定によりこれが  $\sqrt[3]{4}$  に一致しているので,  $\frac{\sqrt[3]{4}}{12a} = \sqrt[3]{4}$  となり,

$a = \frac{1}{12}$  となる。

**2**

(1)

$$\begin{aligned}x + \frac{1}{x} &= \frac{2}{\sqrt{5}-1} + \frac{\sqrt{5}-1}{2} = \frac{2(\sqrt{5}+1)}{(\sqrt{5}-1)(\sqrt{5}+1)} + \frac{\sqrt{5}-1}{2} \\ &= \frac{\sqrt{5}+1}{2} + \frac{\sqrt{5}-1}{2} = \sqrt{5}\end{aligned}$$

である。すると、

(i)

$$x^3 + \frac{1}{x^3} = \left(x + \frac{1}{x}\right)^3 - 3\left(x + \frac{1}{x}\right) = (\sqrt{5})^3 - 3(\sqrt{5}) = \underline{2\sqrt{5}}$$

(ii)

$$x^2 + \frac{1}{x^2} = \left(x + \frac{1}{x}\right)^2 - 2 = (\sqrt{5})^2 - 2 = 3$$

に注意して、

$$x^4 + \frac{1}{x^4} = \left(x^2 + \frac{1}{x^2}\right)^2 - 2 = 3^2 - 2 = \underline{7}$$

(2) 6試合目でAチームが優勝するということは、5試合目までAチームが3勝し、6試合目でAが勝つ確率を求めればよい。従って、Aが勝つ確率は $\frac{1}{3}$ なので、求める答えは以下のように反復試行の確率を用いて与えられる。

$$\begin{aligned}{}_5C_3 \left(\frac{1}{3}\right)^3 \left(\frac{2}{3}\right)^2 \times \frac{1}{3} &= \frac{5 \cdot 4 \cdot 3}{3!} \left(\frac{1}{3}\right)^3 \left(\frac{2}{3}\right)^2 \times \frac{1}{3} \\ &= 10 \left(\frac{1}{3}\right)^3 \left(\frac{2}{3}\right)^2 \times \frac{1}{3} \\ &= \underline{\frac{40}{729}}\end{aligned}$$

(3)  $t = \sin \theta$  とする。 $t$  の動く範囲は  $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$  より  $0 \leq t \leq 1$  である。与式を  $t$  で表すと以下のようにになる。

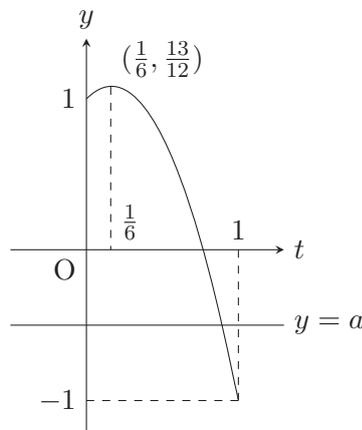
$$\begin{aligned} 2 \sin^2 \theta - \cos^2 \theta - \sin \theta + a &= 2 \sin^2 \theta - (1 - \sin^2 \theta) - \sin \theta + a \\ &= 2t^2 - (1 - t^2) - t + a \\ &= 3t^2 - t + a - 1 = 0 \end{aligned}$$

これより,

$$-3t^2 + t + 1 = a \quad \dots\dots (*)$$

を満たす  $t$  ( $0 \leq t \leq 1$ ) のうち,  $\theta$  がちょうど 2 つであるような定数  $a$  の値の範囲を求めればよい。ところが, 明らかに  $t = \sin \theta = 1$  のとき  $\theta$  は 1 つである。

よって, 題意を満たすのは,  $0 \leq t < 1$  の範囲で, (\*) を満たす  $t$  がちょうど 1 つの解をもつときである。そこで,  $f(t) = -3t^2 + t + 1$  とおいて, 平方完成すると,  $f(t) = -3\left(t - \frac{1}{6}\right)^2 + \frac{13}{12}$  ( $0 \leq t < 1$ ) となり, グラフは以下となる。



以上から,  $0 \leq t < 1$  の範囲で, 直線  $y = a$  と関数  $y = f(t)$  のグラフの共有点が 1 つである  $a$  の値の範囲は,  $-1 < a < 1, a = \frac{13}{12}$  となる。

**3**

(1) 初項から第  $n$  項までの和を  $S_n = \sum_{k=1}^n a_k$  とし、公比を  $r = \sqrt{2}$  とする。

$$\begin{aligned} 14 = S_{10} - S_4 &= \frac{a_1(1-r^{10})}{1-r} - \frac{a_1(1-r^4)}{1-r} \\ &= \frac{a_1\{(1-r^{10}) - (1-r^4)\}}{1-r} \\ &= \frac{a_1(r^4 - r^{10})}{1-r} = \frac{a_1(2^2 - 2^5)}{1-\sqrt{2}} = \frac{a_1(-28)}{1-\sqrt{2}} \end{aligned}$$

よって、 $\frac{-28a_1}{1-\sqrt{2}} = 14$  より  $a_1 = \frac{\sqrt{2}-1}{2}$ 。

(2) (i) 与式を変形すると  $\tan \theta > -\frac{1}{\sqrt{3}}$  となる。 $0 \leq \theta < 2\pi$  の範囲で考えると、

答えは次のようになる。 $0 \leq \theta < \frac{\pi}{2}$ ,  $\frac{5}{6}\pi < \theta < \frac{3}{2}\pi$ ,  $\frac{11}{6}\pi < \theta < 2\pi$

(ii) 三角関数の合成から  $2\sin\left(\theta - \frac{\pi}{3}\right) > -1$  となり、 $\sin\left(\theta - \frac{\pi}{3}\right) > -\frac{1}{2}$  を得る。

$\alpha = \theta - \frac{\pi}{3}$  とおくと、 $-\frac{\pi}{3} \leq \alpha < \frac{5}{3}\pi$  である。この範囲において、

$$\sin \alpha > -\frac{1}{2}$$

を満たす  $\alpha$  の範囲を求めればよいので、 $\alpha$  の範囲は  $-\frac{\pi}{6} < \alpha < \frac{7}{6}\pi$  となる。

よって、求める  $\theta$  の範囲は  $\frac{\pi}{6} < \theta < \frac{3}{2}\pi$  である。

(3)  $x + 7y = 1$  のもとで、相加・相乗平均を用いる。

$$\begin{aligned}\frac{1}{7x} + \frac{1}{y} &= (x + 7y) \left( \frac{1}{7x} + \frac{1}{y} \right) = \frac{1}{7} + \frac{x}{y} + \frac{y}{x} + 7 \\ &= \frac{50}{7} + \frac{x}{y} + \frac{y}{x} \geq \frac{50}{7} + 2\sqrt{\frac{x}{y} \cdot \frac{y}{x}} \\ &= \frac{50}{7} + 2 = \frac{64}{7}\end{aligned}$$

等号は  $\frac{x}{y} = \frac{y}{x}$  のとき、すなわち、 $x^2 = y^2$  のとき成立する。 $(x - y)(x + y) = 0$  として、

$x = y$  のときは、 $x + 7y = 1$  から  $x = y = \frac{1}{8}$  となる。

$x = -y$  のときは、 $x + 7y = 1$  から  $x = -\frac{1}{6}$ ,  $y = \frac{1}{6}$  となるので、条件  $x > 0$  に反するので不適である。

以上から、 $x = y = \frac{1}{8}$  のとき最小値  $\frac{64}{7}$  をとる。

4

(1) 点 P は直線 AB 上にあるので  $\vec{OP} = \vec{OA} + t\vec{AB}$  ( $t$ : 実数) と表すことができる。

$$\vec{OP} = (2, -1, 3) + t(1, -1, 1) = (2+t, -1-t, 3+t) \quad \dots (*)$$

$\vec{OP}$  の大きさの 2 乗を計算すると、

$$|\vec{OP}|^2 = |(2+t, -1-t, 3+t)|^2 = (2+t)^2 + (-1-t)^2 + (3+t)^2 = 3t^2 + 12t + 14$$

よって、 $|\vec{OP}|^2 = 3(t+2)^2 + 2$  となる。

以上から、 $t = -2$  のとき、 $|\vec{OP}|^2$  が最小となるので、従って  $|\vec{OP}|$  が最小となる。

このときの点 P の座標は (\*) より  $\underline{P(0, 1, 1)}$  である。

(2) 複素数  $z$  は原点を中心とする半径 2 の円周上にあるから、 $|z| = 2$  を満たす。 $w = \frac{1}{1-z}$  より、 $z = \frac{w-1}{w}$  となり、 $|z| = 2$  へ代入すると、 $|w-1| = 2|w|$  を得る。両辺 2 乗して、 $(w-1)\overline{(w-1)} = 4w\bar{w}$  となり、整理して  $3w\bar{w} + (w + \bar{w}) - 1 = 0$  となる。さらに変形して、

$$\left(w + \frac{1}{3}\right)\left(\bar{w} + \frac{1}{3}\right) = \left(w + \frac{1}{3}\right)\overline{\left(w + \frac{1}{3}\right)} = \frac{4}{9}$$

従って、 $\left|w + \frac{1}{3}\right| = \frac{2}{3}$  となるので、 $w$  は 点  $-\frac{1}{3}$  を中心とする半径  $\frac{2}{3}$  の円を描く。

(3)  $F(x) = \int_1^x t^2 f(t) dt$  とおく。すると、 $F(1) = 0$  である。よって、

$$\begin{aligned} \lim_{x \rightarrow 1} \frac{1}{x^2 - 1} \int_1^x t^2 f(t) dt &= \lim_{x \rightarrow 1} \frac{F(x)}{(x+1)(x-1)} \\ &= \lim_{x \rightarrow 1} \frac{F(x) - F(1)}{x-1} \cdot \frac{1}{x+1} = F'(1) \cdot \frac{1}{2} \end{aligned}$$

ここで、 $F'(x) = x^2 f(x)$  より、 $F'(1) = f(1) = 5$  に注意すると、

$$\lim_{x \rightarrow 1} \frac{1}{x^2 - 1} \int_1^x t^2 f(t) dt = F'(1) \cdot \frac{1}{2} = \underline{\underline{\frac{5}{2}}}$$